



広報

なほ

市民の友

第647号 毎月1回発行
2004年(平成16年)

12月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷機

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2004(平成16)年10月末現在	
総人口	312,758(1,875)
男	151,329(970)
女	161,429(905)
世帯数	124,976(1,092)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	90,350
真和志	105,498
首 里	58,979
小 緑	56,056



那覇市 障害者美術展

おもいのままに夢を描く

**可能性と意欲を
尊重しよう**

障がい者の社会参加と社会の障がい者に対する理解の促進を目的に、「那覇市障害者美術展」を11月6日(土)・7日(日)、沖縄県立武道館アリーナ棟で開催しました。3回目を迎える今年度は、223点の作品が展示されたほか、神戸を拠点に活動する社会福祉法人「フロップステーション」の理事長・竹中ナミさんをお迎えして、講演会とシンポジウムが行われました。

「フロップステーション」は、まだ携帯電話やパソコンが普及されていない14年前から、コンピュータを活用して障がい者の就労をめざし活動している法人です。講演会で竹中さんは、「人間には生まれながらに(困難と)向き合える力を持っている」と話し、障がいを持つ人のことを「disabled(チャレンジド)」と呼び、その人の可能性や意欲を尊重しよう、と提言しました。

今回出展した多くの作品が受賞した「沖縄病院 ひまわりの会」は、国立療養所沖縄病院の筋ジストロフィー症のみなさんで結成する美術クラブです。那覇市長賞に選ばれた又吉辰也さんは、「多くの人が見て、感動してもらえればうれしい。ほかの作品を見ることで良い刺激になります」と、うれしそうに答えてくれました。おもいおもいに描いた色彩豊かな作品に、家族や関係者は足を止め、作品をハツクに記念写真を撮るなど、会場は和やかな雰囲気になっていました。

*筋ジストロフィー症とは筋肉が萎縮し、その機能を失っていく病気です。
*秘書広報課では、固有名詞以外の障害の「害」の字を「が」と表記しています。

主な紙面	
市民介護相談員	2
平成16年度・上半期那覇市の財政	3
災害に強い那覇市をつくらう	4
平成17年度・保育所入所児童募集	5
情報PACK	6
	7

市長の談 TAIDAN 20



あらがき かよこ
新垣 佳世子

NPO法人 おしゃべりMUSICオフィス代表
那覇市生まれ。桐朋学園大学短期大学・県立芸術大学卒業。沖縄タイムス芸術選賞特別賞受賞。芸大在学中に芸術交流を自主企画し、インドネシアやパルなどアジア各国で学生相互二国間国際交流を開催。

納長雄志市長 地域の児童生徒を対象に、様々なジャンルの音楽が楽しめる「学校音楽鑑賞会」を行い、市としてもたいへんお世話になっております。

新垣佳世子さん 子どもたちに、ジャンルを超えた「音楽」を肌で感じ、さらに沖縄の芸能のすばらしさを知ってもらいたいです。音楽によって、豊かな心を育む手助けになればと思っています。

市長 学校で鑑賞会を始めたきっかけを教えてください。
新垣 気軽に音楽に接してほしいこと、もう一つは小さい頃に、周囲の人が弾いていたサンシンを聞いて学ぶのと、高いお金を払って外国に留学して学んだものと、さほど変わりはないということを知ってほしかったのがきっかけです。

市長 私は優秀な人が外国で学んで演奏するの、身近な人から学んで演奏するのは、違うと思っていました。がそうではないのですか。
新垣 それは私の考えなのですが、若い頃に外国を放浪して、沖縄に帰って来たときに、誰かに強要されたわけではなく、自然発生的に沖縄の芸能を見たくなり毎日、劇場に出かけていました。

その時、気づいたのは、沖縄の芸能はその道のプロから直伝されていることです。海外で学んでも地域で学んでも同じだと思うようになりました。しかし残念ながら、それを観る

豊かな心を音楽で育む

市長 先人たちが築いた、沖縄独自の伝統芸能を伝承し、盛り上げていくためにも、行政だけでなくNPOや地域のみなさんのアイディアを活かした取り組みが必要だとあらためて感じました。今日は、貴重なご意見ありがとうございました。



本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。

お気づきの点がありましたらお寄せ下さい。
☎862-9942 秘書広報課

12100再生紙を使用しています。